

ふくちやま まちあるきマップ

城下町 歴史探訪編

戦国武将明智光秀は、丹波を平定した際、北部の拠点として福知山城を築き、この地を「福知山」と名付けました。善政を敷き、城下町の礎を築いた良君として、今なお市民に慕われている光秀の足跡をたどってみましょう！

所要時間
徒歩
約60分
(見学時間除く)



海の京都

① 福知山城
天正7年(1579年)頃、明智光秀が丹波を平定した際に築城したと伝えられています。天守台の石垣は、当時の姿を今に伝えている貴重なもので近隣の社寺から集められた五輪塔や宝篋印塔を転用した石材が多数使用されています。

② 旧松村家住宅
明治時代から大正時代にかけて建築された京都府指定有形文化財の建物群です。大規模な築堤工事に松村組が関わったようので、堤防の安全性を証明するため、この地に建てたという邸宅です。

③ 京口門
江戸時代には、京街道から福知山へ入る玄関口「京口門」がここにありました。中に折れていく町並みには城下町の面影が残されています。

④ 明覚寺
明治6年、廃城により福知山城の建物群が次々と取り壊されましたが、城門のうち数棟は市内のいくつかのお寺の山門として移築されました。明覚寺山門は、その中のひとつです。

⑤ 明智敷
明智光秀は、新たな町を作るため、由良川の治水に尽力したと伝えられ、堤防の前に敷を設け、水流の衝撃をやわらげる工夫を施しました。蛇ヶ端御敷と呼ばれたその敷は、今では「明智敷」として親しまれています。

⑥ 由良川堤防
明智光秀公は、由良川の流れを変えて城下町を整備し、水運業の発達と街を水害から守ることを目的として、堤防を築きました。その後、由良川水運で繁栄した福知山城下では、このあたりに築かれた舟渡で多くの物資が積み込まれて京都や大阪へ運ばれたそうです。現在では、遠くからも目立つ白いニールセンローゼ橋「音無瀬橋」が、福知山城とともにまちのシンボルとなっています。

⑦ 広小路商店街
福知山の城下町はたびたび大火に見舞われていました。そこで、福知山藩は類焼被害を防ぐため、町屋敷地区の中央を防火帯として16~20m幅幅し「広小路通り」と名付けました。その後は、北近畿有数の歓楽街として発展し、大変にぎわったそうです。現在、城下町風に外観を修景し、新しいまちづくりがスタートしています。

⑧ 久昌寺
最も長く福知山藩を治めた朽木家の菩提寺です。お手洗いは、なんとトイレの神様が祀られているので必見です。周辺は寺院が集められた「寺町」に当たり、多くのお寺が立ち並んでいます。

⑨ 金毘羅神社(丹後口)
丹後街道から城下町への入口付近に、水運の神が祀られています。玉垣には、京都や大坂の事業者の名前が刻まれており、由良川水運の要所として、日本海を介した丹後地域と都市部との商取引が盛んに行われていたことがうかがえます。

⑩ 高良厄除神社
「厄神さん」として親しまれています。元々は、水害に苦しむ人々の安心立命のために建てられたのではないかと考えられています。境内には、かつて丹後口付近にあった、「京都・大坂」と「丹後・但馬」への分かれ道を示した道標が移設されています。

⑪ 梅干し半十郎観音
安政六年(1859年)、当時福知山藩は財政再建のため年貢を増徴し、広小路通りに諸商業正直取締会所を設置して地域の製品の取引高にに応じて税を取り立てました。ある晩、そこに賊が入り、役人を斬り、金を奪い、人々に分け与えました。賊の一人であった松岡半十郎は処刑される際、持っていた金の観音像を飲み込み、「私の墓に梅干しを持って参れば、首から上の病は必ず治る」と言い残したそうです。以来、彼はこの場所に祀られ、今でも梅干しをお供えする人が絶えません。

⑫ 御霊神社
明智光秀を祀った神社です。1705年の創建で、光秀の没後120年経ったころ、町民たちによってその霊が合祀されました。光秀の善政が後世にも伝わり、ずっと慕われていたことがしのばれます。境内には、全国でも唯一の「堤防」をご神体とする堤防神社があります。



250m

道路
土手道